

化学療法計画書

ID					
氏名					
生年月日					
実施部署			発行日		
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m ²)	1.50

指示医師:		
指導医師:		
投与開始予定日:	年	月 日
投与終了日:	年	月 日

病名	乳癌
治療法	ハーセプチン+パージェタ+タキソテール併用療法

	1	2	3
抗癌剤・商品名	ハーセプチン	パージェタ	タキソテール
規格	60mg 150mg	420mg/14mL	20mg/0.5mL 80mg/2mL
一般名	トラスツズマブ	ペルツズマブ	ドセタキセル
一日投与量(規定)	8mg/kg(初回) 6mg/kg(2回目以降)	840mg/回(初回) 420mg/回(2回目以降)	75mg/m ²
患者情報から算出した 一日投与量	初回 400 mg	初回 840 mg	112.58 mg
	2回目以降 300 mg	2回目以降 420 mg	
実際の投与量	初回 400 mg	420 mg	110 mg
	2回目以降 300 mg		
投与日	初回 8 mg/kg	73.3 mg/m²	
	2回目以降 6 mg/kg		
投与日	day1		
1クール期間	21日間		
予定クール数			
検査スケジュール	原則的に投与前に化学療法施行前セット 検査データに応じて臨時に検査実施		

推奨経口剤	このレジメンは軽度催吐性リスク群です。制吐目的としての経口デカドロンは推奨されません。 ※タキソテールによる浮腫予防目的としてデカドロンを投与される際は指示及び観察記録内を参照ください
適応基準	HER2過剰発現が確認された進行・再発乳癌患者
禁忌	1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 3.重篤な骨髄抑制のある患者 4.感染症を合併している患者 5.発熱を有し感染症の疑われる患者 6.本剤又はポリソルベート80含有製剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
中止基準	投与前の好中球数:1500/mm ³ 未満、血小板数:100,000/mm ³ 未満 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (CLEOPATRA試験の投与基準に準拠)
副作用	<p>●ハーセプチン</p> <p>重大 1.心障害(心不全、心原性ショック、肺浮腫、心嚢液貯留、心筋症、心膜炎、不整脈、除脈等:頻度不明) 2.アナフィラキシー様症状(頻度不明) 3.間質性肺炎・肺障害(頻度不明) 4.白血球減少、好中球減少、血小板減少、貧血(以上頻度不明) 5.肝不全、黄疸、肝炎、肝障害(以上頻度不明) 6.腎障害(頻度不明) 7.昏睡、脳血管障害、脳浮腫(以上頻度不明) 8.敗血症(頻度不明)</p> <p>その他 1.発熱・悪寒(ともに27.7%) 2.無力症(19.8%) 3.悪心(19.4%) 4.疼痛(12.7%)</p> <p>●パージェタ</p> <p>重大 1.好中球減少症(50.9%)、白血球減少症(16.7%) 2.infusion reaction(8.8%) 3.アナフィラキシー(1.0%)、過敏症(9.3%) 4.間質性肺疾患(0.5%)</p> <p>その他 下痢(58.0%)、脱毛症(57.0%)、倦怠感(52.1%)、悪心(36.6%)、爪の異常(35.6%)、ニューロパチー(31.0%)、発疹(30.7%)</p> <p>●タキソテール</p> <p>重大 1.骨髄抑制(白血球減少:80.3%、好中球減少:73.8%、ヘモグロビン減少:46.5%、血小板減少:21.4%) 2.ショック症状(0.2%)、アナフィラキシー(0.2%) 3.黄疸、肝不全、肝機能障害(頻度不明) 4.急性腎不全(0.1%未満) 5.間質性肺炎(0.6%)、肺線維症(0.1%未満) 6.心不全(0.1%未満) 7.播種性血管内凝固症候群(DIC:0.2%) 8.腸管穿孔(0.1%未満)、胃腸出血(0.4%)、虚血性大腸炎(頻度不明)、大腸炎(0.1%未満) 9.イレウス(0.2%) 10.急性呼吸促迫症候群(0.1%未満) 11.急性膵炎(頻度不明) 12.皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群:頻度不明)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群:頻度不明)、 多形紅斑(0.1%未満)、13.心タンポナーデ(頻度不明)、肺水腫(0.1%未満)、浮腫性体液貯留(0.7%) 14.心筋梗塞(0.1%未満)、静脈血栓症(頻度不明) 15.感染症(2.5%) 16.抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH:頻度不明) 17.重篤な口内炎等の粘膜炎、血管炎、末梢神経障害、末梢性運動障害、Radiation Recall現象</p> <p>その他 食欲不振(58.2%)、脱毛(56.7%)、全身倦怠感(49.6%)、悪心(48.5%)、嘔吐(48.4%)</p>
備考	<p>● タキソテール添付溶解液にアルコール含有→アルコール禁の患者では溶解液を生食 or 5%ブドウ糖へ変更</p> <p>● 投与開始前に心エコーなどでLVEFを測定すること→50%未満の際は投与について再度検討すること</p>

ハーセプチン+パージェタ+タキソテール併用療法 観察記録

所要時間: 初回5時間30分
2回目以降3時間30分

氏名: ID() 年齢: (才)

施行日		クール	回目	施行前内服薬()	入外()
医師	指示医師:	抗癌剤用量 計画書設定量 計画書設定量より減量 計画書設定量より増量 減量・増量理由			抗がん剤以外の薬剤の変更・追加
	ハーセプチン (mg) 一般名(トラスツズマブ) パージェタ (mg) 一般名(ペルツズマブ) タキソテール (mg) 一般名(ドセタキセル)				
<input type="checkbox"/> 投与決定 <input type="checkbox"/> 未決定 <input type="checkbox"/> 延期・中止					投与開始時間 調剤 実施
投与指示	本体	側管			
	生食100mL		初回 5時間30分かけて点滴【18mL/hr】 2回目以降 3時間30分かけて点滴【28mL/hr】		
		生食250mL+パージェタ	初回 60分かけて点滴【250mL/hr】 2回目以降 30分かけて点滴【500mL/hr】		
		本体を流しながら経過観察	初回 60分 2回目以降 30分		
		生食250mL+ハーセプチン	初回 90分かけて点滴【167mL/hr】 2回目以降 30分かけて点滴【500mL/hr】		
		生食100mL +ラモセトロン1A +デカドロン 2 A	30分かけて点滴【200mL/hr】		
		5%ブドウ糖250mL +タキソテール	60分かけて点滴【250mL/hr】		
本体終了後抜去					